

糖定量[尿]		10000			
		担当部署			
U-glucos		生化			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダー手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*5.尿・便・その他→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		特記事項なし			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	新鮮尿	23 スピッツ	なし	10	mL
2	蓄尿	22 蓄尿	防腐剤、尿量インジゲーター	10	mL
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		設定なし				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		食事、運動、興奮(ストレス)によって一過性に陽性となることがある。				
臨床的意義		<p>血中のグルコースは、分子量が小さいため糸球体で自由に濾過されるが生理的にはそのほとんどが近位尿細管で再吸収され、尿中への排出はごくわずかである。したがって、尿中にグルコースが出現するのは血糖が高くなり腎尿細管での再吸収能(排泄閾値)を超えるか尿細管での排泄閾値が低いからである。</p> <p>血液採取に比べ非侵襲的であるため、小児を中心にスクリーニングとして用いられている。</p> <p>日本臨床第 7 版 1 101,2009</p>				